

## 野辺町区有文書目録と目録作成について

- 1 野辺の地名は古く、「南北朝期に見える地名」（角川地名大辞典）とされる。近世の高井郡野辺村は、明治維新の変革を経て明治 22 年（1889）には合併して上高井郡高甫村となり、昭和 30 年（1955）には須坂市へ編入合併して須坂市野辺町となった。この間、寛文年間（1661～73）には村石新田の開発がすすみ、新田村として幕末期には村方三役も置かれている。
- 2 本区有文書中最古の史料は、須坂藩初期の地押し検地帳とされる元和 7 年（1621）9 月「野辺村地詰帳」である。ほかに村石新田の成立に関わる寛文 4 年（1664）の「野辺新田辰改帳」ほか享保頃までの新田開発史料もみられる。また、奥山野辺・米持・井上・亀倉四ヶ村入会山関係史料のほか用水係争関係、儉約規定史料も遺されている。明治 6 年（1873）の壬申地券発行のための調査・野帳である「名所分字亀春帳」ほか関係小帳簿、さらには、明治 19 年の丈量誤謬関係史料も多数見られる。昭和に入っては、大恐慌後の失業救済低利資金借用・返還に関わる史料、戦後の青年団活動史料等貴重な史料が保存されている。
- 3 これら現存する史料を「野辺町区有文書目録」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「055」（55 番目）に位置づけ、史料番号は「055-A-1」から開始して、整理ラベルを貼付した。  
文書目録は、一部入会山関係文書を例外として、原則としては時系列により配置して作成した。史料点数は以下のように 677 点を数える。

記号	分類項目	総史料番号	史料点数
A	江戸（入会文書含）	129	129
B	明治	109	109
C	大正昭和	439	439
	合計	677	677

- 4 本史料目録が、野辺町をはじめとする須坂市民、さらには、多くの地域史研究者によって活用されることを期待する。そして、すでに発刊されている『野辺町区誌』（平成 10 年刊）の叙述・成果に加えて、さらに地域の歴史に輝きを添えられることを願ってやまない。

- 5 史料目録の作成に当たっては、史料活用の便を考慮して次のようにした。
- (1) 史料名は、原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料には、次のように（ ）をもちいて仮表題を作成して掲げた。  
（野辺村絵図） （畦畔図面帳 合戦塚）
- (2) 「記」・「覚」のみで内容無記載の史料については、次のように（ ）内に内容説明を記載したものもある。  
一札之事（心得違い詫び書） 覚（御用金請取）
- (3) 請取など切手まがいの一紙史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、次のように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。  
上納金領収書、外 10 点 苗木売渡証、外 1 点
- (4) 史料形態については、次のように略記した。  
横（横帳）、 横半（横半帳）、 縦（縦帳）、 紙（一紙）、  
封（封書）、 冊（冊子）、 綴（ジョイント含む）など

- 6 本史料目録は、野辺町のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

勝山一男

竹内正勝

小林謙三

（編さん担当：青木廣安・丸山文雄）

2012年9月18日

須坂市誌編さん室